

げっ か しん びょう ず

# 紙本着色「月下神猫図」保存修復報告

上江洲安亭<sup>\*1</sup>・當間 巧<sup>\*2</sup>

## 1 はじめに

平成21年10月から、22年3月までの作業期間で、(財)海洋博覧会記念公園管理財団首里城公園管理センターの所蔵の紙本着色「月下神猫図」軸装一幅の修復作業を行った。

本作品は查丕烈（仲宗根眞補）筆の神猫図であり、軸装に仕立てられている。表具は三段表具に仕立てられていた。修復後も同様に三段表具に仕立てた。今回の修復においては、作品の修復、表具のやり変えにとどまらず、管理者の依頼により、本紙の技術分析も試みた。

## 2 作品の状態

### 1) 形状及び寸法

紙本着色の掛軸装であり修復前後の法量は以下の通りである。

#### (1) 修復前寸法 (写真1)

表具寸法 丈 135.4cm  
幅 73.5cm  
本紙寸法 丈 42.6cm  
幅 61.2cm

#### (2) 修復後寸法 (写真2)

表具寸法 丈 136.4cm  
幅 73.8cm  
本紙寸法 丈 43.1cm  
幅 61.8cm



写真1 修復前・表具全図



写真2 修復後・表具全図

### 2) 表装

#### (1) 修復前

形式：三段表具／上下：茶地平絹  
中・廻し：青磁地草花紋緞子  
一文字・風帯：薄金白茶地魚波紋金襴  
軸首：象牙 (写真3)

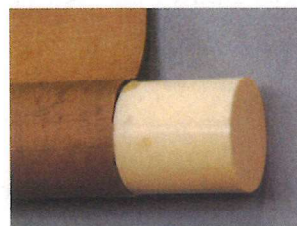


写真3 修復前  
象牙頭切軸首。

#### (2) 修復後

形式：三段表具／上下：茶地古代絛（岐阜産）  
中・廻し：薄藍地唐草紋緞子（京都産）  
一文字・風帯：薄茶地竹屋町金襴（京都産）  
軸首：象牙 (写真4)

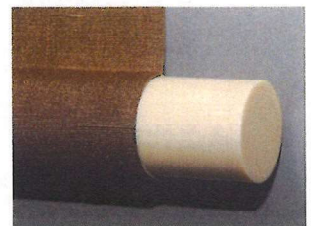


写真4 修復後  
新調した象牙軸首。

\*1 (財)海洋博覧会記念公園管理財団 首里城公園管理センター 事業課 調査展示係 係長

\*2 石川堂

### 3) 修復前の損傷状況

- (1) 本紙には時代的な汚れが見受けられた (写真10,12)。
- (2) 本紙には、横折れが多数生じていた (写真5)。



写真5 修復前・本紙全図  
下部より斜光線を当て折れを強調。

### 4) 繊維組成試験

料紙特定のため、高知県立紙産業センターに繊維組成試験を依頼した。試験の結果は以下の通りである。本紙繊維は「竹」であるという結果を得た。

竹の繊維を主として製紙原料とする紙、とくに中国で若竹の繊維を処理して作られていた。竹の種類はきわめて多く、品質もよいが破れやすい紙である (写真6)。

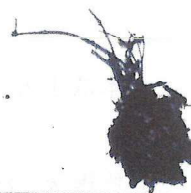


写真6 本紙・顕微鏡写真  
「竹」の繊維である。

### 5) 修復方針

修復前の調査に基づき以下の修復方針をたてた。

- (1) 絵具の剥落止めを行う。
- (2) 本紙の欠損箇所に適する補修紙で繕いを施す。
- (3) 本紙の汚れの除去を行う。
- (4) 本紙の横折れが生じている箇所、及び今後明らかに生ずると思われる箇所に折れ伏せを入れる。
- (5) 表装裂、軸首、鐙、上軸、下軸、掛け紐、を新調する。
- (6) 収納箱として、太巻添軸桐印籠文化財保存箱を新調する、収納保存にあたっては太巻添軸を添えて巻き、折れ破損の要因を軽減する。又木綿の袱紗を新調し表具を包み収納箱に保存する。
- (7) 料紙特定のため、高知県立紙産業技術センターに委託し、繊維組成試験を行う。

## 3 修復仕様

- 1) 修復前に写真撮影を行い、本紙の状態を調査した。
- 2) 薄膠溶液を用い、部分的に絵具の剥落止めを行った。
- 3) 表装を解体した。解体作業中に旧付け回し部分約3mmに隠れていたオリジナルの絵が確認された (写真7)。以上の点を当件担当者との協議の結果、隠れていた絵画面を出来る限り出し、絵画面を広くすることに方針を改めた (写真8,9)。



写真7 修復中・本紙裏旧付け回し部分欠損箇所  
付け回し部分に隠れていた絵が確認された。



写真8 修復前・本紙（部分）



写真9 修復後・本紙（部分）

旧付け回し部分に隠れていた絵を出して絵画面を広げた。

4) 汚れの除去を試みた、作業は本紙を傷めない範囲にとどめた（写真10,11,12,13）。

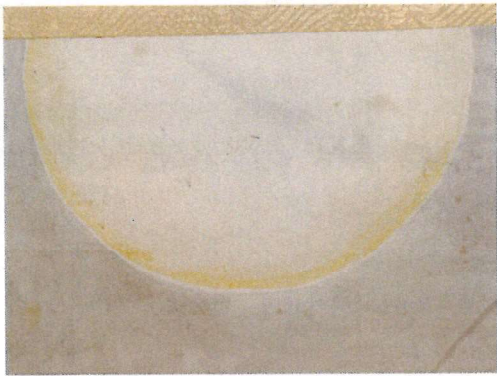


写真10 修復前・本紙（部分）

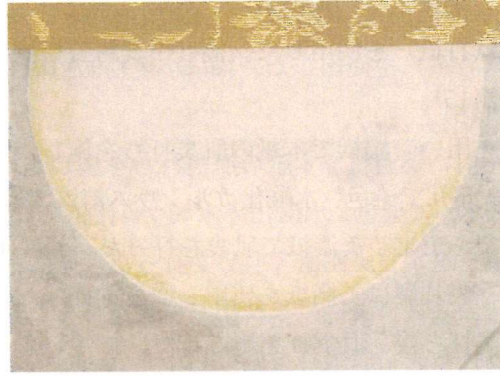


写真11 修復後・本紙（部分）



写真12 修復前・本紙（部分）



写真13 修復後・本紙（部分）

5) 本紙を養生紙で表打ちし仮張り後、本紙旧肌裏紙を捲り取った (写真14)。



写真14 修復中・本紙裏面 (透過光写真)  
肌裏紙を残した状態。  
旧肌裏紙は4枚の和紙を継ぎ合わせて、  
裏打ちが施されていた。

6) 本紙裏面より、欠損箇所にも類似の形に切り取った補修紙を用いて繕いを施した。補修紙には本紙の風合い、質感などの点から古紙 (竹紙) を使用した。糊は小麦粉澱粉糊【新糊】を用いた (写真15)。



写真15 修復中・本紙裏面 欠損箇所の繕い作業

7) 新糊を用い美濃紙で本紙の肌裏打ちを施した。肌裏紙は天然染料 (矢車) で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後使用した。

8) 表装裂を選定し美濃紙で肌裏を打った。糊は新糊を用いた。

9) 本紙、表装裂に美栖紙を使用し増裏を打った。糊は新糊を複数年鍾乳洞にて保存したもの【古糊】を使用し裏打ち後、仮張りを施した。

10) 本紙の横折れが生じている箇所、今後明らかに生ずると思われる箇所に折れ伏せをいれた。折れ伏せ紙は楮紙用い、糊は新糊を使用した。

11) 本紙と表装裂を付け回し、古糊を用いて美栖紙で中裏を打った。裏打ち後、仮張りを施した。

12) 古糊を用いて宇陀紙で総裏を打ち、仮張りを施した。

13) 環、軸首、上軸、中軸、掛け紐等を新調した (写真4)。

14) 十分に乾燥させた後、表具に仕上げた。

15) 収納箱として、桐太巻添軸桐印籠文化財保存箱ならびに、紙帙を新調し、表具を木綿の袱紗に包み収納保存した (写真16)。



写真16 桐太巻添軸桐印籠箱

#### 4 結び

今回修復作業を行った「月下神猫図」の軸装は、比較的状态は良好であったが、旧軸装の巻径が2.7cmで細く巻かれていた (写真3)。巻径の細さが本紙に、横折れと糊浮きの影響を及ぼしていた (写真5)。

長期的な保存を考慮し、強靱で上質の和紙を用いて本紙の裏打ちを行い、本紙の折れが生じている箇所には、伝統的修理技法である折れ伏せを入れ、また収納保存は太巻添軸を添えて巻き、折れ破損の要因を軽減した。また旧付け回し部分に隠れていたオリジナルの絵を、出すことができたことも付け加えておきたい (写真8,9)。このことにより絵画面は丈、幅ともに約6mm広くする事ができた。

今回、查丕烈筆「月下神猫図」を修復の為、手元に預かり、解体し琉球王国最後の絵師であった絵画に、触れ、驚き、緊張し、あらためて琉球時代の絵師や、絵画について考えさせられた貴重な仕事であった。